

## 日本温泉科学学会小史

本稿は 去る昭和26年4月、伊豆嵯峨沢温泉に於て開催の、第4回大会に際し、同年が本会創立10周年に当たつたので、過去10年間の本会の歩みを、伊東評議員から簡単に述べたものゝ原稿で、昨年発行の4巻4号に載せる筈のところ、編集者の手違いから掲載されになつてゐた。ところが昨年末、日本地質学会が創立60周年記念号を発刊するに当り、本会の小史を求められたので、本稿を同誌に寄稿したので、それを若干修正しておくればながらこゝに掲載する。

日本温泉科学学会の創立は、その前段階としての温泉研究談話会に遡り、同会は昭和14年6月12日、東京霞ヶ関の当時の華族会館に於て、第1回創立世話人会を開催した。その出席者は藤浪剛一、木村健二郎、岡田彌一郎、吉村信吉、江本義教、伊東祐一の6氏で、相談事項の第1として、学会創立の前提として研究談話会を設けるといつてをり、その時既に学会創立の意図がもたれてゐたことは明らかである。それ故、同年から数えれば、創立12周年（昭和26年現在）になるわけである。これより先、同年春頃から故藤浪剛一博士を中心に、温泉国日本に於ける温泉の科学研究者の横の連絡機関の必要を痛感する人達が、随時何回かの会合をし、その話合いの結果、研究談話会が誕生したわけである、第2回世話人会は7月26日、東京神田の学士会館で柴田雄次、木村健二郎、三沢敬義、伊東祐一、朝比奈貞一、江本義教の6氏が出席し、世話人発起人中から、朝比奈貞一、伊東祐一、江本義教、岡田彌一郎、木村健二郎、菅原健、津屋弘達、平山嵩、藤浪剛一、三沢敬義、宮部直巳、吉村信吉の12氏が幹事に指定され、編集、会計、庶務の分掌が定められ、10月7日に創立記念研究談話会を開くことを決定した。

9月20日に第1回幹事会を学士会館に開催、幹事一同出席、藤浪博士を座長に推し、幹事の紹介、第1回研究談話会たる創立記念講演会開催の細目につき相談、終つてかねて人選中であつた本会会長に東京帝大名誉教授中村清二博士を推薦決定した。当時の入会申込者は183名を数えられた。

創立記念講演会は、10月7日東京上野の科学博物館講堂で開催、中村会長閉会の辞、岡田彌一郎氏の日本の温泉動物について、藤浪剛一博士の日本温泉治療学の発達史なる2講演に続いて、映画「健康は温泉から」、「聖地高千穂」の2編を上映、参会者84名で意義ある第1回の集会を終つた。

11月16日の第2回幹事会に於て、「温泉研究談話会誌」の発行を決定、11月28日その第1号が発行され、前記記念講演会に於ける岡田、藤浪両博士の講演が掲載された。当時の会員数230名、第2回講演会は12月7日、東京神田の鉄道博物館講堂で開催菅沼市藏博士の硫黄泉をめぐる、高安愼一博士の天然温泉の特異性について、なる2講演と映画の上映があつた。第3回講演会は、15年2月12日神田淡路町の東京医師会館講堂に於て、中村左衛門太郎博士の温泉と地球物理学なる講演があり、続いて第4回は3月30日、鉄道博物館講堂で、武田軍治氏の温泉保護の法律的方法、三沢敬義博士の温泉療法についての2講演と映画2編上映、第5回は6月20日、鉄道博物館講堂で木内信藏氏の温泉及び温泉聚落の地理的分布、なる講演と、映画「温泉風物誌」、「鉄輪」の2編が上映された。

半年ぶりに6月20日第3回幹事会を東京銀座交詢社に於て、朝比奈、伊東、江本、岡田、木村、黒田、菅原、藤浪、三沢、吉村の10幹事出席の下に開催、出来得れば16年1月から本会発足当時の趣旨に従つて、学会に改組すべきことを決定、第4回幹事会は9月13日、同じく交詢社に於て、朝比奈、伊東、江本、木村、黒田、菅原、藤浪、三沢、宮部の9幹事出席の下に開催、当時のわが国の状態として16年1月からの学会発足が、困難ではないかということが憂慮され、各幹事の善処方が要望された。第5回幹事会は9月25日鉄道博物館会議室に於て、朝比奈、伊東、江本、木村、藤浪、黒田の6幹事出席の下に開催、伊東幹事より学会への改組、学会誌発行の見通しがついた旨報告、引続いて同館講堂に於て第6回講演会開催、山田醇氏の温泉旅館雑感なる講演と映画2編の上映があつた。

第6回幹事会は11月9日日比谷の陶々亭に於て開催、中村会長、朝比奈、伊東、江本、木村、黒田、菅原、藤浪、

三沢、宮部の9幹事が出席、研究談話会を学会に改組の件を決定した。11月27日鉄道博物館会議室で第7回幹事会開催、中村会長、朝比奈氏他7幹事が出席、その席上で学会の名称を日本温泉科学学会と決定した。引続いて同館講堂で第7回講演会を開催野口喜三雄博士の本邦間歇泉の化学的研究なる講演と映画2編上映、12月14日第8回幹事会を鉄道博物館会議室で開催、中村会長、朝比奈氏他7幹事出席、学会誌名を「温泉科学」と決定、温泉研究談話会幹事全員を新学会の理事に、伊東、江本、岡田、木村、三沢の5氏を常任理事に会長から指名、また藤浪剛一氏を副会長に推薦した。この間に研究談話会誌は1号(内容前掲)に続いて2号(第2回講演会講演)、3号(第3回講演会講演)、4号(第4回講演会 武田氏講演)、5号(第5回講演会講演)、6号(第4回講演会、三沢博士講演)、7号(第6回講演会講演)を発行して、「温泉科学」に発展的解消をした。

以上は主として学会発足の前研究談話会時代の記事であるが、これは当時の記録が殆んど散逸してしまつたのではないかと思はれたので、稍詳しく記したが、学会発足後は「温泉科学」に学会記事として記録されているので、講演会の題目と理事会に於ける重要事項を列記する。

第1回講演会(通算8回)、16年1月27日慶應大学医学部附属病院講堂に於て、茂木藏之助博士の創傷に対する温泉療法、

第1回理事会、2月1日交詢社に於て、中村会長、藤浪副会長、朝比奈他10理事出席、理事の事務分担を定め編集常任理事朝比奈、江本2氏、庶務常任理事岡田、伊東2氏、会計常任理事木村氏を決定、評議員並びに監事は会長指名によることとした。

第2回講演会(9回)3月10日、結核予防会講堂に於て、小林儀一郎博士の本邦温泉の地質的分類並びに温泉湧出と地質構造線の関係に就いて、第3回理事会3月29日交詢社に於て、中村会長、藤浪副会長、朝比奈他6理事出席、会誌の体裁、会名、誌名の改訂など決定、

第3回講演会(10回)5月10日、学習院に於て、江本義教博士の日本産温泉植物に就いて、

第3回理事会、5月10日学習院に於て、伊東他5理事出席、江本、伊東両理事内務省検閲課に出頭し、会誌発行につき当局の了解を求むることとし、この件につき5月19日両理事出頭の上了解を得た。

第4回理事会、9月13日交詢社に於て、藤浪副会長、朝比奈他5理事出席、会誌第1巻第1号創刊に関する報告、出版文化協会入会決定の件を報告。

第4回講演会(11回)12月4日、東京医師会館に於て、増山元三郎博士の氣象病について、

第5回講演会(12回)17年3月28日東京科学博物館講堂に於て、松尾武幸博士の温泉の刺戟と生体の反應、岩崎岩次博士の温泉化学上の二三の問題、

第5回理事会、3月28日科学博物館会議室に於て、中村会長、伊東他4理事出席、

第6回講演会(13回)6月8日慶應大学医学部講堂に於て、小穴進也博士の温泉水の重水濃度、

第6回理事会、9月28日、日比谷「東洋軒」に於て、中村会長、藤浪副会長、江本他7理事出席、会費値上の件決定。

第7回理事会12月18日 日比谷「東洋軒」に於て、中村会長、江本他3理事出席、藤浪博士逝去に伴う副会長後任として江本義教博士を推薦、

第8回理事会、18年5月22日本郷「鉢の木」に於て、中村会長、江本副会長、朝比奈他5理事出席、故藤浪理事の後任として慶應大学医学部教授春名英之博士の就任を決定。

第7回講演会(14回)6月26日東京帝国大学理学部化学教室に於て、木村健二郎博士の引湯による温泉成分の変化数例、廣瀬孝六郎博士の温泉工学に就いて、

第8回講演会(15回)9月8日東大理学部化学教室に於て、小穴進也博士の湯候温泉に就いて、

この8回(通算15回)の講演会と第8回理事会をもつて、また会誌も回を重ねること3巻3号(18年9月30日発行)

に至つて、当時のわが国の戦局の事情から本会の運営も困難となり、機能の一部である事務的の面を除いては停止するの余儀なきに至つた。この間、創立の功労者藤浪剛一博士が、17年11月29日、長逝されたことは、本会にとつて大きな損失であつた。副会長には代つて学資院教授江本義数博士が就任された。

戦後わが国の状態は御承知の如く混沌の域を脱することが出来ないような有様だつたので、本会の再建も容易なわざではなかつたが役員並びに会員各位の絶大なる協力によつて、23年5月1、2の両日、兵庫縣城崎温泉に於て、本会創立以來初の大会であり、戦後初めての集まりである第1回大会を開催するに至つた。時はよし所はよし当時まだ交通、食糧事情の不良な所ではあつたが、北は北海道南は九州から会する者70余名、伊東評議員の開会の辞に始まり会長の挨拶、各担当幹事の会務報告、会則改訂、役員選出に続いて、21題の出演発表と太奏北大教授の「温泉の変化について」なる特別講演をもつて第1日を終り、第2日目は町当局者の案内によつて温泉地内の各所を視察見学した。会誌の復刊は1年おくれて24年7月20日に3巻4号の発行を見、以來今日に及んでいる。第2回大会は24年8月5、6の両日、長野縣野沢温泉で開催、出演13題、岡山医大関教授の「本邦温泉水の酸化還元電位と硫化物の作用」なる特別講演があり、出席者数20数名、第3回は25年4月10、11の両日、和歌山縣勝浦温泉で開催、出演19題、出席者約30名。第4回が今回であつて、この間に第1回第2回は、研究談話会から引続いて中村清二博士が会長の任にあつたが、老齡の故をもつて辞意を表されたので、同博士を名誉会員に推薦、代つて東大教授木村健二郎博士が24年10月1日会長に就任され、副会長は江本義数博士に代つて資源科学研究所副所長岡田彌一郎博士が23年5月1日就任された。尙学会の再発足に際して、会則の変更により理事を廃し評議員をおくことになり、次の24氏が選出された。伊東祐一、岩崎岩次、太奏康光、江本義数、木村健二郎、岡田彌一郎、大島良雄、大塚彌之助、黒田利雄、柴田雄次、関正次、高安愼一、武田軍治、中村清二、八田秋、春名英之、平松博、廣瀬孝三郎、福富孝治、藤卷時男、松尾武幸、松浦新之助、三沢敬義。